



私が、現在の診療所に勤務して三年が過ぎました。ここ茨城県城里町(旧桂村)は那珂川が大きくゆつたりと流れ、とてもどかな農村地域です。

生きなくていい

「もうこれ以上生きなくていいよ」

着任して間もないある日、いつもの定期受診に來られた九十代女性の言葉です。

人は、さまざまな考え方や価値観を持っていて、取り巻く家族状況や生活背景も、それぞれ違つてでしょう。それでも、人は

耳傾け寄り添い続けたい

みんな、元気に長生きすること、が幸せ、と私は思っていました。そして、そのお手伝いをさせてもらうのが私の仕事と思つていました。

受診しているにもかかわらず、

「生きなくていいよ」との言葉に、私は戸惑い、衝撃を受



桂地区内を巡回する診療所の無料送迎バスを利用する人も多い。診療所は地域高齢者の交流の場にもなっている

しらべ 調 のりや 徳也 18期生1995年卒

城里町国保沢山診療所

【私の勤務地】城里町国保沢山診療所は、平成の大合併で城里町になったが、旧桂村の中では、唯一の診療所。旧桂村の人口は約7000人、移住者は少なく高齢化が進んでいる。診療所は地域全般の医療を担っている。

心の内聞きながら

そんな日々の中で、やはり受診するたびに「生きなくていい」と話される患者さんが何人かいます。

血圧の薬を取りに来ていただけだから検査はしないでほしいと言つた。往診で瓶にためた小銭を懸命に数えて診療代を払う

す。毎日の診療を通してたくさんのお会いを経験させてもらいました。診療所に訪れる患者さん

は一日およそ八十人。患者さんの話をじっくり丁寧に聞き、

最善の医療を行うこと、かつ、待ち時間を少しでも減らすこと、医師が一人しかいない診療所

で、それらを両立するのは、簡単なことではありません。

しかし、どちらもおおそかにしてはいけない大切なことだ、と肝に銘じて毎日真剣に取り組んでいます。

人。「何もいいことがないよ」とつづむいてつづやく人。同居している家族に診療代を気兼ねして必要な医療を受けたがらない人。もう存分に生きたいから、いつお迎えが来てほしいと笑顔の人。その内容はさまざまです。

診療所の医師とはいえ、孫の年ほどの私に患者さんは心の内を話してくれます。そんな時、私は結局ただ聞くことしかできません。もしかしら、患者さんは本当の気持ちすべてを話せないでいるかもしれません。

「生きなくていい」の言葉には、その人の複雑な心境があり、私のかかわりで変えられるとは思いません。

しかし、どんな言葉にも耳を傾け、患者さんの心にそつと寄り添い続ける医師でありたいと強く思っています。

(次回予定は新潟県) 【訂正】六日付「Dr.シチ高知県」で、内田望医師の勤務先が「嶺北中央病院」とありますが、原稿は「梶原町立国保栲原病院」勤務時のことでした。訂正します。